

# 国語科における環境教育

— 広い視野から環境をとらえて —

兵庫教育大学学校教育学部附属中学校 坂口洋文

## I さまざまな環境と国語科教育

環境を自然環境だけでなく、人間を取り巻くさまざまなものとしてとらえ、教育の中で考えていきたい。人間は、さまざまな環境の中で生き、それらに大きな影響を受けている。特に、自然環境問題は、当然教育の大きな課題であるが、その他人間を取り巻く重大な環境問題が、現在さまざまな分野で生じていると思われるからである。

### 1 自然環境と国語科教育

#### (1) 自然と人間との関係を題材とした教材の読解、鑑賞の学習

① 知識、理解、技能面などとともに、自然環境問題に関する内容的価値も大切に読解、鑑賞の学習を行っている。

#### (2) 自然環境の問題を題材とした表現の学習

##### ① 読後の感想・話し合い

読後の感想に次のような観点を設定して書かせている。

ア 筆者の考えに対する自分の考えを書く

イ 文章を読んで考えた今後の自分の生き方を書く

##### ② 環境問題を題材とした表現の学習

学習の成果を生かして郷土の「緑化推進作文コンクール」に、全員参加した。生徒たちは大きな意欲をもって取り組み、自然環境への関心の深まりが見られる作品が多くできあがった。

##### ③ 環境問題を取り上げたディベート学習

例えば、自動車の排気ガスに弱いナキウサギの保護派と生活を豊かにするための道路建設派に分かれてのディベートを行った。

#### (3) 学校行事と関連した体験による自然理解の学習

##### ① 修学旅行（3年）

ア 事前学習において、各教科での学習成果を生かし自分の興味・関心に応じた環境学習の課題を設定させた。さらに、自己の学習課題解決のために現地で資料を収集させ、帰ってからそれをまとめさせて学習記録集を作成した。

イ 事前の俳句の学習を生かし、現地で俳句の実作をさせた。また、帰

校後にその俳句ができた時の情景や心情をまとめさせ、一冊の本にした。修学旅行における俳句学習を通して、自然や自然と人間との関わりを見つめる目を養った。

## ② 野外活動

2年でも、野外学習前に学習計画を立て、自分の興味・関心に応じて現地でさまざまな側面において環境から学び取る学習をした。そして、2年生でも、その成果をまとめて学習記録集を作成した。

## (4) 感性を養う教育

### ① 河合雅雄先生（京大名誉教授）のアドバイス

今の子供に欠けているのは読書だ。いい作品をたくさん読ませたい。そして、自分でじっくり考える時間を持たせたい。  
文学者の自然や人間に関する鋭いすばらしい感性をたどっていかせたい。ぜひ、読書をやらせていただきたい。（日本学術振興会の記念講演より）

## ② 自然描写

文学作品の中には、自然を描写したすばらしい表現があちこちに散りばめられている。そのような表現に目を向けさせ、自然と人間との関わりの深さを気づかせ、自分もそのような目を持つことができるようにしたい。

作品に出てくる冬の情景描写を参考にさせて、自分たちの冬を表現させる実践に取り組んだが、生徒たちも意欲的に取り組み、自分たちの環境を見つめる機会となった。

## ③ 古典の学習

古典には、昔の人々の自然に対する豊かな感性が息づいている。中学校で学習する「枕草子」や「おくのほそ道」、「万葉集」その他の和歌集などの学習において、人間にとっての環境の大切さ、日本人の伝統的自然観などを理解させていこうとしている。

## 2 言語環境と国語科教育

「国語は『言語の教育』である」。我々は言語によって意志の疎通を図り、言語によって文明や文化を発達させてきた。その大切な言語環境を見つめさせ、「国語に対する認識を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重する態度を育てる」ことは国語科の大きな目標であると言えよう。

### (1) 話し言葉

話される言葉の一つ一つで、人は楽しくなったり、深く傷ついたりする

ものである。中学生の話し言葉も、改善すべきさまざまな問題を抱えている。例えば、次のようなことである。

- ① 敬語を使えない生徒が多い。
- ② 相手を思いやる言葉が少ない。
- ③ 女生徒の言葉が男性語化している。
- ④ 私的な場で話すことは大いにやるが、公の場で話すことが不得手な生徒が多い。

## (2) 聞くこと

対話はよき話し手とともに、よき聞き手がなければ成り立たない。中学生にとって、聞くことから学ぶことは多いのだが、しっかり聞き取ろうとする意識の弱い生徒が多いようだ。

## (3) 書写力（掲示物、作品、ノートなど）

我々の周りは、書かれた物によっても取り囲まれている。生徒たちは書くことによって環境に影響を与えるわけだが、書くことに関する次のような課題もある。

- ① 字が非常に雑な生徒が多く見られる。
- ② 最近では少なくなってきたが、マンガ字やマル字を書く生徒もいる。
- ③ 公共物や文化財、その他の建物の壁等への落書きをする若者も多い。

上記のような言語環境問題に対する普段の指導も、さらに積極的に行っていかなければならないであろう。言語環境は、社会や対人関係を豊かで実りあるものとするうえで、極めて重要なものであると言える。

## 3 社会的、精神的、文化的、人的環境などと国語科教育

特に、後述Ⅲの本校の研究の「人間と環境」科3年の取り組みにおいて、社会的、精神的、文化的、人的環境などに関する学習にも取り組んでいる。その中で、国語科の果たす役割は極めて大きいものがある。

## Ⅱ 環境教育の基礎教科としての国語科教育

後述Ⅲの本校の研究「人間と環境」科の取り組みにおいては、特に国語科の力が必要となる。例えば、次のような活動の中での読書力や情報活用能力等、国語科が担っていることは多い。

- 1 情報の収集（新聞記事、本、各種資料等）・取捨選択・整理
- 2 情報に関する自分の意見の整理や発信 など

### Ⅲ 本校の「人間と環境」科の取り組み

本校では、文部省研究開発学校指定による研究実践を行っている。今年はその2年目である。研究開発とは、特別の許可を得て、現行の学習指導要領によらないでよい将来の教育を模索する実践研究である。

特に、環境問題への対応を図る「人間と環境」科（週1時間ずつ、2・3年中心に）と、情報化社会への対応としての情報科（各学年週1時間ずつ）を設定して、実践研究に取り組んでいる。

#### 1 2・3年での「人間と環境」科の学習内容と国語科教材

##### (1) 2年

No	学 習 内 容	教 材（「光村図書」）
①	人間と自然との関わり	「おばあちゃんと花」（旧1年） 「太平洋と日本海を桜で結ぼう」（旧1年）、 「35億年の命」（3年）他
②	水や大気の汚染	「気象と人間」（旧2年） 「金星大気の教えるもの」（3年）
③	砂漠化や土地の荒廃	「ひろがる砂漠」（旧2年）
④	動植物の保護	「自然の小さな診断役」（1年） 「巨鯨の目」（1年）
⑤	エネルギーに関する問題	「本当に必要なものは」（1年）
⑥	学問と環境改善	「人間の叡知を」（旧3年）

##### (2) 3年

- ① 心身の健康の問題
- ② エイズや性に関する問題
- ③ 福祉についての問題
- ④ 国際理解についての問題
- ⑤ 地域環境の中での生き方
- ⑥ 人権についての問題
- ⑦ 消費者としての生き方

2年と同じように、教材との関わりを  
考えて実践していく。

「人間と環境」科の実践は、現在進行中であり、その中で国語科の果たす役割は極めて大きいことを確認し、今後のより有効な研究実践を進めていきたいと考えている。